

## 学生による地域貢献 復刻版紙細工「安芸宮島の景」



左図は、歌川芳藤の「安芸宮島の景」です。この錦絵は、明治16年(1883)に刷られました。この錦絵には、27個のパーツが描かれています。パーツを切り取って組み立てれば、巖島神社のジオラマを作ることができます。

このような作品は「おもちゃ絵(立版古<sup>たてばんこ</sup>)」と呼ばれ、江戸時代後期から明治時代にかけて流行しました。「おもちゃ絵」が組み立て前の状態で現存するのは、大変珍しいことです。

「博物館展示論」の授業で、「安芸宮島の景」の魅力に気が付いた学生2名(綾目桃子さん、常久真司さん)から、「安芸宮島の景」の復刻版紙細工の製作と、企画展示への活用が提案されたため、宮島学センターの事業として製作することにしました。

学生との打ち合わせは、すべてオンラインでおこないました。Microsoft Teams を利用した打合せには、印刷を委託した株式会社タカトープ rint メディアの統括営業部長山口剛氏にもご参加いただき、学生に印刷時の注意点や紙の特徴等についてご助言をいただきました。特に、組み立て説明書を作成する際には、子どもたちが安全に作業することができるよう、文章を何度も校正し、掲載する写真の角度にもこだわりました。

令和2年8月26日には、廿日市市立宮島小中学校にご協力いただき、同校の「宮島文化部」のクラブ活動の時間に、中学生による組み立て実験をおこないました。

この実験により、ペーパークラフトの作成工程で、子どもたちが失敗しそうなところに気が付くことができました。これにより、道具の使い方や組み立て方の説明文を作成するためのヒントを得ることができました。



図：完成したパンフレット